

## 第V章 現地調査の成果

### 1. 遺跡分布調査及び聞き取り調査（第1図）

西南戦争遺跡の分布調査及び聞き取り調査は、田原坂本道が通る豊岡台地の熊本市北区植木町大字豊岡の田原校区の舟底地区、宿・中久保・本村地区、谷地区および菱形校区の轟立花木、薩軍柿木台場周辺において平成21年（2009年）10月から12月の間に実施した。踏査面積は約2.1km<sup>2</sup>である。調査の実施に当たっては、各区長方をはじめとする地区の皆様方の積極的なご支援とご協力、温かい励ましによって当初の計画どおりに進めることができた。非常にありがたいことであった。

調査の成果は大いに上がった。調査は各区長方や地元の方々と一緒に豊岡台地全域を踏査して、開墾等に際して小銃弾や砲弾、葉莢などが土中から姿を現した場所や状況を聞き取りし、あるいは明治10年以前の墓地の墓石も調査して弾痕の有無も確認することに努め、地図に記入した。

これらにより小銃弾などが集中する場所が判明して政府軍の攻撃方向が想定でき、薩摩軍陣地の場所を推定した。また、小銃弾が採集されたと伝わるのは、三池往還（豊前街道高瀬道）をはさんで台地の西側が多く、東側では小銃弾や砲弾の話聞くことは少なかった。これは、田原坂の戦いの戦闘状況を示すと考えられ、政府軍の攻撃は西方向および北方から多くが行われていて、東側にはあまり廻り込んでいなかったことが考えられた。

今回の踏査では小銃弾などは採集できなかった。しかし、地元の方から寄贈していただいた。また、多くの場所が開墾耕作されており当時の姿をとどめるところは少なかったが、地元の方々から未開墾の場所を教えていただき、後の金属探知機調査やトレンチ調査の適地を選定した。

#### a. 舟底地区

熊本市田原坂西南戦争資料館下の台地西側斜面一帯は、子供の頃からの弾拾いの場所だったとのことで、多量の小銃弾が出土した場所、砲弾片が出土した場所を教示いただいた。出土した斜面地上方は崇烈碑がある小丘に連なり、耕作中に銃剣が出た場所になる。この小丘には開墾前は東西方向にのびる塹壕らしき溝状の窪地があったとのことで、開墾時に見つかった小銃弾を土地所有者の方からご寄贈いただいた。西に舌状にのびる地形で周囲が見渡せ、陣地を構えるには好条件の場所である。

なお、一ノ坂周辺付近では、弾は少なかったとのことであった。

#### b. 宿・中久保・本村地区

宿地区は多くはないが、場所によっては小銃弾が出たらしい。中久保地区には江戸時代墓石に弾痕があり、銃弾や砲弾片が多くあって、集落は焼き払われたとのことであった。各種記録類にも記述がある。中久保集落と深い谷を挟んだ南の立花木周辺では、西方を望むと眼前に二俣台地が迫ってきて、その近さに圧倒される。

本村地区では小銃弾の多量出土地をご教示いただいて3カ所の薩摩軍陣地が推定でき、いずれも見晴らしの良い場所にある。本村地区の田原坂本道近辺では玉東町木葉の政府軍本営方面が一望のもとに見渡せ、特に北東の「見張り場の適地」としたところは人々の行き来がよく見える。近くの古墓地の墓石には複数の弾痕がある。熊野座神社付近は旧状がよく残り、神社西側裏手の切通しでは小銃弾が多く道に散らばって、まるで雪が降ったように白くなっていたとのことであった。熊野座神社は薩摩軍陣地と伝わるところで、ご本尊にまつわる話や社殿焼失の話も残り、四斤砲弾片や中世土器が採集されている。

また、川口武定著『從征日記』挿図「野津少将等立花木壘上ニ在リテ田原坂畧取ノ報ヲ得ルノ図」に描かれた状況は山形や平坦地がひろがる情景、地名「立花木」からみても、薩摩軍七本柿木台場、現在の薩摩軍墓地付近のことにほぼ誤りないと考えられる。古絵図の台場も同様である。

c. 谷地区

谷地区には開墾したところは少ないので、小銃弾などが出たとの話も少ない。ただ、熊野座神社方面の裏手に上る天神坂では多く採集されており、一帯ではもっと多くの小銃弾が出たろうし、この坂の西側は全く開墾が進んでいないので小銃弾が出るだろうとのことであった。谷地区から東に上る幾筋かの細い坂道を、政府軍が攻め上ったことは想像に難くない。水呑み場も2カ所あり、西南戦争の時に兵士が水飲みに来たとの話もうかがった。また、田原坂本道の二ノ坂、三ノ坂の北に隣接する未開墾地には浅い溝状の凹みが残存していた。江戸時代墓石の弾痕は詳細調査が必要である。



本村地区 熊野座神社裏 指差し先から小銃弾が多く出た



本村地区 西方に木葉政府軍本営方面を望む



舟底地区 正面が三ノ坂口谷村計介碑調査地



舟底地区 上方が田原坂資料館、右は資料館下調査地



舟底地区 本道二ノ坂南の薬莢等出土地



谷地区 本道二ノ坂調査地（調査前）



立花木地区 西方二俣台、正面が政府軍古閑砲台跡



立花木地区 北方木葉山方面を望む





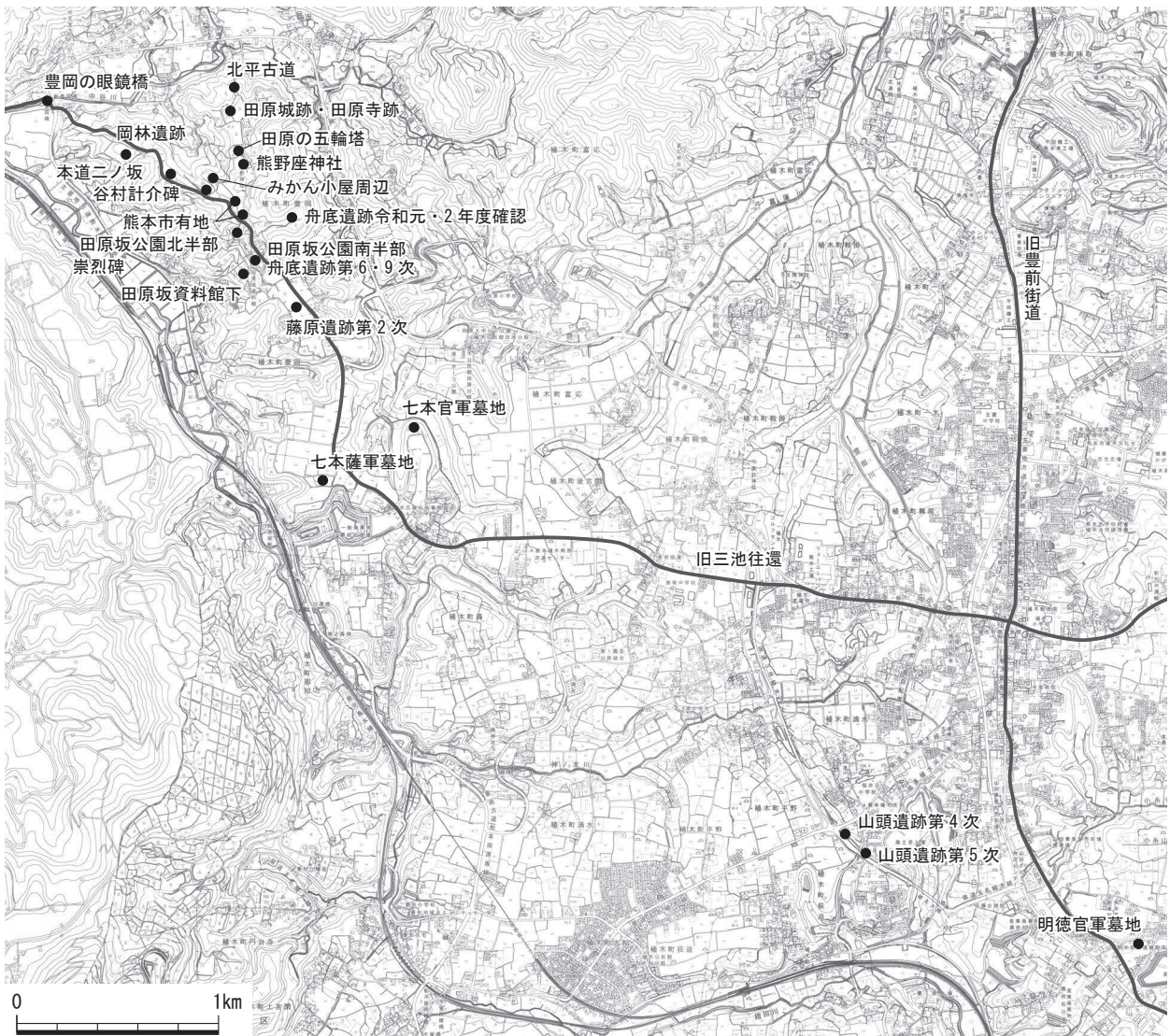
第3図 田原坂周辺分布調査及び聞き取り調査図 (1 / 8,000)

## 2. 各調査地の概要 (第2図・第3図)

各調査地の成果を報告する前に、各地の調査年度・調査面積を記し、位置図を明示する。所在地（住所）は例言に、調査期間の詳細は第I章－4にて既述している。なお、第2・3図には西南戦争関連の資料が検出された主な既往調査事例も表示している。

第5表 各調査地の概要

遺物採集調査・掘削を伴う調査				測量を主とする調査		
調査地名	調査年度	調査総面積	トレンチ面積 (本数)	調査地名	調査年度	調査面積
北平古道	平成 28・29 年度	約 8,000 m <sup>2</sup>	62.5 m <sup>2</sup> (1T)	豊岡の眼鏡橋	平成 24 年度	63 m <sup>2</sup>
田原城跡・田原寺跡	平成 27・28 年度	約 7,000 m <sup>2</sup>	62.5 m <sup>2</sup> (1～15T)	崇烈碑	平成 25 年度	77 m <sup>2</sup>
熊野座神社	平成 25・26・27 年度	約 8,000 m <sup>2</sup>	—	田原の五輪塔	平成 29 年度	約 2,900 m <sup>2</sup>
みかん小屋周辺	平成 26・27 年度	約 4,700 m <sup>2</sup>	—		※周辺地形測量含む、塔面積は 0.5 m <sup>2</sup>	
本道二ノ坂	平成 23・24 年度	10,041 m <sup>2</sup>	—	七本官軍墓地	平成 25・26・27 年度	約 4,800 m <sup>2</sup>
谷村計介碑	平成 21・24 年度	約 800 m <sup>2</sup>	30.5 m <sup>2</sup> (1T)	七本薩軍墓地	平成 24 年度	約 6,200 m <sup>2</sup>
熊本市有地 (北)	平成 27 年度	1,226 m <sup>2</sup>	—	※調査面積は、主に測量委託業務報告に従っている。		
熊本市有地 (南)	平成 27 年度	828 m <sup>2</sup>	—			
田原坂公園北半部	平成 22・23・24 年度	7,197 m <sup>2</sup>	180.4 m <sup>2</sup> (1～21T)			
田原坂公園南半部	平成 22・24 年度	5,079 m <sup>2</sup>	84.6 m <sup>2</sup> (1～14T)			
田原坂資料館下	平成 21 年度	約 150 m <sup>2</sup>	—			
岡林遺跡	平成 25 年度	9,795 m <sup>2</sup>	358.6 m <sup>2</sup> (1～29T)			



第2図 各調査地の位置図 (1 / 35,000)



第3図 豊岡台地における調査地位置 (1/7,000)